

「ボランティア活動」

最初に、皆さんにうれしい報告をさせていただきます。

先日、地下鉄の駅で7年生のS君が電車を待っていると、そこに車いすに乗ったご高齢の方が通られたそうです。駅員さんが近くにいなかったため、S君は車いすの方が電車に乗るのを手伝いしてくれました。また、車いすに気付かなかった乗客に対して、車いすが通ることを何度も声を出して注意してくれたそうです。この行動に感謝して、ご本人からお礼の電話がわざわざ学校にありました。S君のこの行動は簡単な様ですが、とても勇気のいる行動だったと思います。

校長先生も駅で白い杖を持った方が苦勞されているのを見ると、できるだけ声をかけて肩や腕を貸すようにしています。最初は勇気が必要でしたが、中学校でのアイマスク体験等で練習したことで自信がつき、声をかけられるようになりました。皆さんも、学校での福祉体験等で学んだことを活かして、困った人を見かけたら声をかけたり、お手伝いできる人になってほしいと思います。

S君や校長先生の行動のように自分の意志で、周りの困っている人を助けようとする行動をボランティアといいます。今から30年前の1月17日午前5時46分に起こった阪神・淡路大震災をきっかけにこの「ボランティア」という言葉や行動が全国に広まってきました。なので1995年を「ボランティア元年」と呼んでいます。

阪神淡路大震災のときに、救助や建物の復旧がなかなか進みませんでした。そんな中、みんなで助け合おうという気持ちが多くの人から沸き起こり、全国から多くの人が神戸に駆けつけ、救助をしたりがれきを取り除いたり道路を整備したり、また、必要な食料や衣料を運んだりしました。建物が壊れ、その下敷きになった人を助けたのは、自衛隊や警察も来てくれましたが、その多くは近所の手によって助けられたそうです（8割以上といわれている）。このように、この阪神淡路大震災をきっかけに、ボランティア活動は大いに認められ、今に引き継がれています。

「ボランティア」というのは、人から「しなさい」と言われてするものではなく、「自分からすすんでする」という意味です。そして、あたりまえですが、お金はもらえません。誰かの役に立ちたい、社会をよりよくしたいと強く思うことがきっかけで始めるものです。S君や以前この場所で紹介したバスケットボール部員のように、困っている人を見かけたら声掛けや手を貸してあげることができるいまみや小中一貫校の児童生徒であってほしいです。

これで校長先生のお話を終わります。